

今、世界は悲しみと絶望に満ちていると言えるかもしれません。終わらない戦争、テロの連鎖、報復など。

これらは、貧困から抜け出すため、政治の矛盾を正すため、資源を求めて、愛する人を護るためなどなど、さまざまな理由によって起こり、そして暴力を正当化します。様々な事柄が複雑に絡み合い、調整も困難を極めます。立場が違えば考えも異なりますので、当事者同士が話し合いのテーブルにつく事が困難な場合もあります。

『法句經』に、次のようなお釈迦さまの言葉があります。

「すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。

己が身をひきくらべて、殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ。」

「すべての者は暴力におびえる。すべての生きものにとって生命は愛しい。

己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」

非常にシンプルな言葉ですが、自らに引きくらべてみれば、暴力におびえない方はいないでしょう。命を愛おしむ気持ちは人類共通の意識なのです。

現在、暴力の連鎖を無くすために、さまざまな取り組みがなされています。政治の立場から、経済の立場から、医療の立場から、教育の立場から…。

このような取り組みの根っこに無くてはならない意識は、「己が身に引きくらべる」つまり、自らの身におきかえて考えてみる事が大切なのだと思います。

あたりまえの事と思われるのかもしれませんが、相手の身になって考える事や、相手を慮（おもんばか）る事を、日常の生活で我々はどれだけ意識しているでしょうか。

身近な平和から世界の平和へ。

身近な方への気遣いから始める事が必要なのではないのでしょうか。